

3. 技術・環境委員会

令和4年度の技術・環境委員会における主な活動状況は次のとおりである。

3-1 委員会の構成

(1) 技術・環境委員会

委員長	丸山 英之	(SWCC(旧昭和電線ケーブルシステム))
委員長代行	森島 浩之	(SWCC(旧昭和電線ケーブルシステム))
副委員長	飯島 晃一	(古河電工パワーシステムズ)
委員	中島 仁	(河村電器産業)
〃	佐藤 大晴	(北日本電線) (岡崎 勝彦より途中交代)
〃	松本 祥吾	(住電機器システム)
〃	望月 俊秀	(スリーエム ジャパン イノベーション)
〃	古賀 龍也	(大電)
〃	市原 謙	(タツタ電線) (森永 清司より途中交代)
〃	白石 侑	(谷川電機製作所)
〃	古長 成翔	(西日本電線)
〃	飛鳥井 哲也	(日本ガイシ)
〃	阿辺山 健	(日本エネルギーコンポーネンツ) (長岡 祐希より途中交代)

(2) ワーキンググループ

下記編成の3WGで構成した。

第1WG 日本エネルギーコンポーネンツ、北日本電線、谷川電機製作所、
古河電工パワーシステムズ

第2WG 大電、河村電器産業、住電機器システム、西日本電線

第3WG スリーエム ジャパン イノベーション、タツタ電線、日本ガイシ、
SWCC(旧昭和電線ケーブルシステム)

3-2 委員会開催日及び場所

(1) 技術・環境委員会

第197回	令和 4年	6月	2日	JCAA事務所およびWEB会議
第198回	令和 4年	7月	21日	JCAA事務所およびWEB会議
第199回	令和 4年	9月	27日	JCAA事務所およびWEB会議
第200回	令和 4年	11月	24日	JCAA事務所およびWEB会議
第201回	令和 5年	1月	26日	JCAA事務所およびWEB会議

第202回 令和 5年 3月 9日 JCAA事務所およびWEB会議
(2) ワーキンググループ

第1WG 6回実施

第2WG 6回実施

第3WG 6回実施

3-3 委員会出席者 計 65名

3-4 審議資料 計 119件

3-5 事業内容及び主な活動内容

(1) 電力ケーブル接続用品及び関連材料に関する環境問題の検討

① 電力ケーブル接続用品の梱包・包装材料の調査及び検討

梱包・包装材料及び緩衝材についてのリサイクル状況、また各業界の取り組みについて、テクニカルレビューとして掲載した。(会報No. 103に掲載)

(2) 電力ケーブル接続技術に関する安全確保

① 電力ケーブル接続用品の事故防止のための保守管理の提案

外部からの問い合わせに対する回答対応(5件)を実施した。

② ケーブルシースシュリンクバック対策に関する評価方法の検討と検証

シースシュリンクバック対策の検査規格(案)を作成し、(一社)日本電線工業会へ趣旨説明を行い、ケーブルシース機械特性取得について協力を依頼した。

③ 発行書籍の改訂

・JCAA技術報告(第9号)「自家用電気工作物における高圧ケーブル接続部の事故分析とその対策」の改定

(一財)関東電気保安協会殿から最新の資料を入手し、報告書としてまとめた。

合わせてテクニカルレビューとして紹介記事を会報No. 104に掲載した。

(3) 電力ケーブル接続技術に関する標準の制定作業

① 規格・標準類の見直し及び改定(33件)

以下の規格について見直しを行い、改定が必要な規格については改定版を発行した。

検査規格：B001、B002(2件)

製品規格：S001(1件)

単品規格：D002、D003、D011、D012、D015、D016、D018、D019、D020、D022、
D023、D025、D026、D027、D029、D030、D033(17件)

作業説明書：F3102、F4102-1、F4103-1、F5105、F6102、F6201、FS001(7件)

設計経緯：G001、G002、G003、G006、G008、G020(6件)

②製品規格S001「6600V 架橋ポリエチレン絶縁電力ケーブル用過電流ロック形高圧交流ガス開閉器（地中線用）終端接続部」の適用終端接続部拡大検討
K1301適合製品のS001への適用について審議を実施し、性能基準を盛り込んだ規格に改定した。

③アルミ端子・アルミスリーブ規格化の検討
評価試験のうち38mm²の引張試験について、N数を増やし各社で再試験を行うこととした。

(4) 電力ケーブル接続技術に関する内・外関係機関等との交流推進事業
（一社）日本電気協会「令和4年度 低コスト手法普及拡大に向けた電線地中化工法の調査等事業委員会」に作業会委員として参加した。

(5) 電力ケーブル接続技術に関する普及啓発活動

①会報へのテクニカルレビューの掲載

No. 103 『電力ケーブル接続用品の梱包・包装材料の検討について』

No. 104 『自家用電気工作物における高圧ケーブル接続部の事故分析とその対策』